

武田信玄の軍師・山本勘助が教える 「風林火山」の兵法に学ぶ経営学

〔平成19年、NHK大河ドラマ「風林火山」(原作・井上靖)放映〕

講師：板垣英憲

〔趣旨〕

軍学書「甲陽軍艦」の伝えるところによれば、山本勘助は武田信玄に仕え、信濃攻略など勲功を顕し、軍師として活躍した「武田24将」の一人。永禄4年9月の第4次川中島合戦のおり、「きつつきの戦法」を信玄に献策し、妻女山の敵陣の背後を突いて下山させ、一気に殲滅せんとしたが失敗。責任を痛感して斬り死を遂げたという。しかし、山本勘助の武勇と智略は、今日まで称賛とともに言い伝えられてきている。「孫子の兵法」の一節を旗印にして、源・孫子の直系を天下に示した「武田信玄」が、山本勘助の「知謀」を得て展開した「戦略・知略」を現代経営に活かす。

それは、「孫子の兵法」が、いまや現代経営者にとって「必携」となっているからでもある。米国マイクロソフト社のビルゲイツ、ソフトバンクの孫正義らが、経営の実戦に生かしていることは有名であり、経営実戦の応用すべき点が、多々ある。

〔内容〕

〔1〕今、なぜ山本勘助なのか

- ①経営者は、確固とした「経営指針」に従い経営を行うことが求められている。
- ②世界の優れた経営者の大半は「経営指針」を持って経営しており、見習う点が多々ある。
- ③「経営指針」として「孫子の兵法」を活用している経営者が少なくない。

〔2〕山本勘助の「智謀」と「智略」に学ぶ

- ①武田信玄に軍師として仕えた山本勘助の生涯
- ②平安末期の碩学・大江匡房から武田家が受け継いだ「源・孫子」の系譜
－「風林火山」の旗印、武田信玄の経営哲学「人は石垣、人は城」
- ③徳川家康が「源・孫子」と「武田軍団」を引き継ぎ、国家経営に生かした。
－「徳川265年、長期政権の基礎を築いた秘密」

〔3〕「風林火山」継承の障害(問題点)とは？

- ①「孫子の兵法」が、明治維新以降、軽視されてきた。
- ②「孫子の兵法」が、軍学に偏って伝えられてきた。
- ③これまで「孫子の兵法」を経営に生かす方法が確立されていなかった。

〔4〕「孫子の兵法」を経営に生かす方法－「情報戦略」と「経営戦術」

- ①「孫子の兵法」を「経営の方法」に組み立て直す。
- ②「孫子の兵法」を経営に生かしている日本の経営者に学ぶ
 - ・「積水化学」の経営者－「積水」は「孫子の兵法」の一節
 - ・「カルビー」の経営者
「野村証券」の経営者－田淵節也元社長が好んだ「勢い」
 - ・「ソフトバンク」孫正義社長の「孫の二乗の法則」
－「孫子の兵法」と孫正義のオリジナル
- ③「孫子の兵法」を経営に生かしている諸外国の経営者に学ぶ
 - ・米国マイクロソフト社CEOの「思考スピードの経営」(「兵は拙速を聞く」)
－「デジタル経営教本」

参考：「孫子の兵法」(始計篇第一から用間篇第13まで)